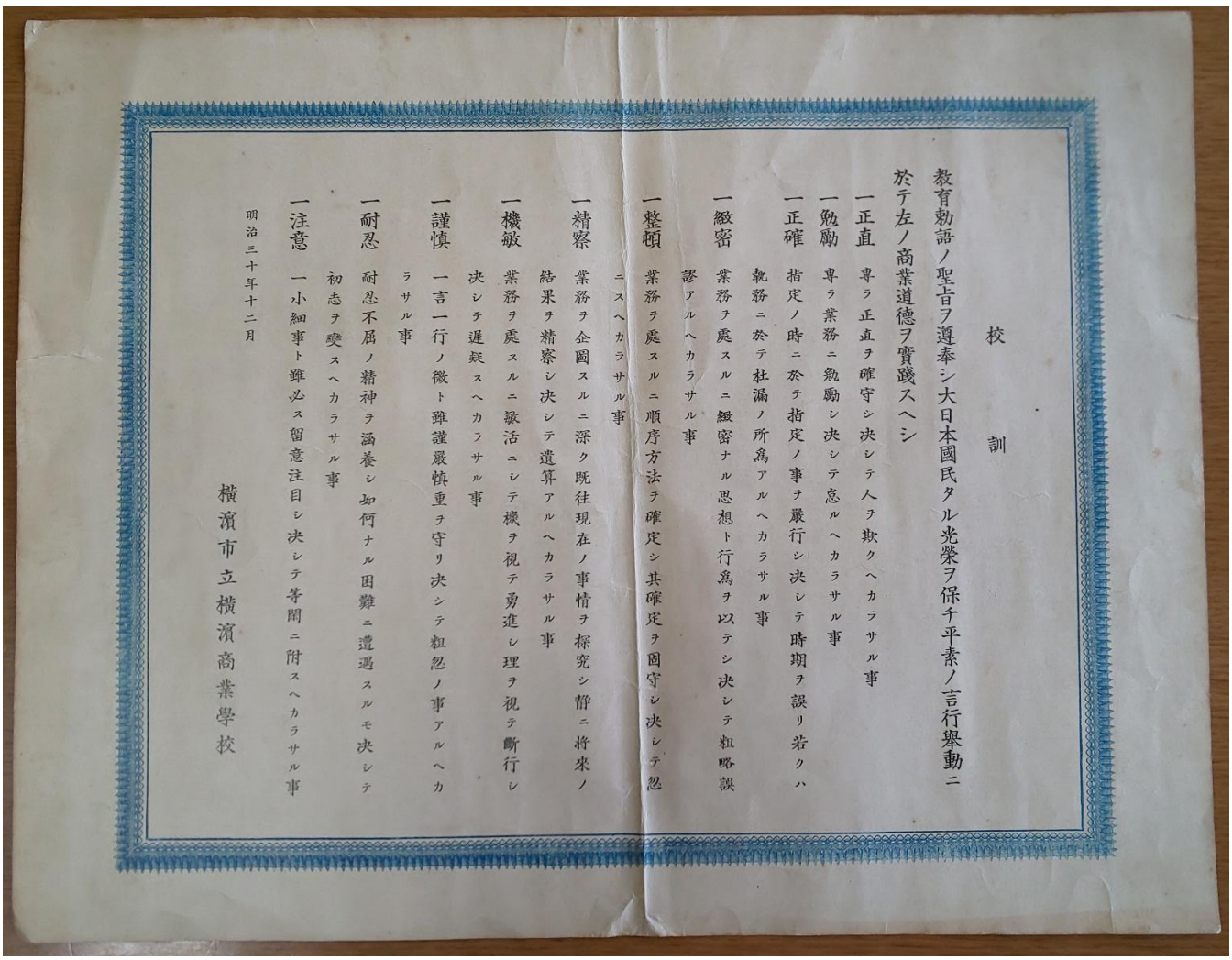
Y校アーカイブ vol. 1 「校訓」

図書館には、間もなく創立140周年を迎えるY校の歴史を語る資料が数多く保管されています。
少しずつ「図書館だより」にて紹介していきます。 第一弾は創立時からの「校訓」です。



校訓

教育勅語ノ聖旨ヲ遵奉シ大日本國民タル光榮ヲ保チ平素ノ言行擧動ニ於テ左ノ商業道徳ヲ實踐スヘシ

一正直　專ラ正直ヲ確守シ決シテ人ヲ欺クヘカラサル事

一勉勵　專ラ業務ニ勉勵シ決シテ怠ルヘカラサル事

一正確　指定ノ時ニ於テ指定ノ事ヲ嚴行シ決シテ時期ヲ誤リ若クハ執務ニ於テ杜漏ノ所爲アルヘカラサル事

一緻密　業務ヲ處スルニ緻密ナル思想ト行爲ヲ以テシ決シテ粗略誤謬アルヘカラサル事

一整頓　業務ヲ處スルニ順序方法ヲ確定シ其確定ヲ固守シ決シテ忽ニスヘカラサル事

一精察　業務ヲ企圖スルニ深ク既往現在ノ事情ヲ探究シ靜ニ將來ノ結果ヲ精察シ決シテ遺算アルヘカラサル事

一機敏　業務ヲ處スルニ敏活ニシテ機ヲ視テ勇進シ理ヲ視テ斷行シ決シテ遲疑スヘカラサル事

一謹愼　一言一行ノ微ト雖謹嚴愼重ヲ守リ決シテ粗忽ノ事アルヘカラサル事

一耐忍　耐忍不屈ノ精神ヲ涵養シ如何ナル困難ニ遭遇スルモ決シテ初志ヲ變スヘカラサル事

一注意　一小細事ト雖必ス留意注目シ決シテ等閑ニ附スヘカラサル事

明治三十年十二月

横濱市立横濱商業學校



往時に行われた校訓朗読

この校訓を毎朝朗読していた様子が「Y校七十周年記念誌」(昭和28年) に掲載されています。

Y校アーカイブ　vol. 2　「帳合之法」

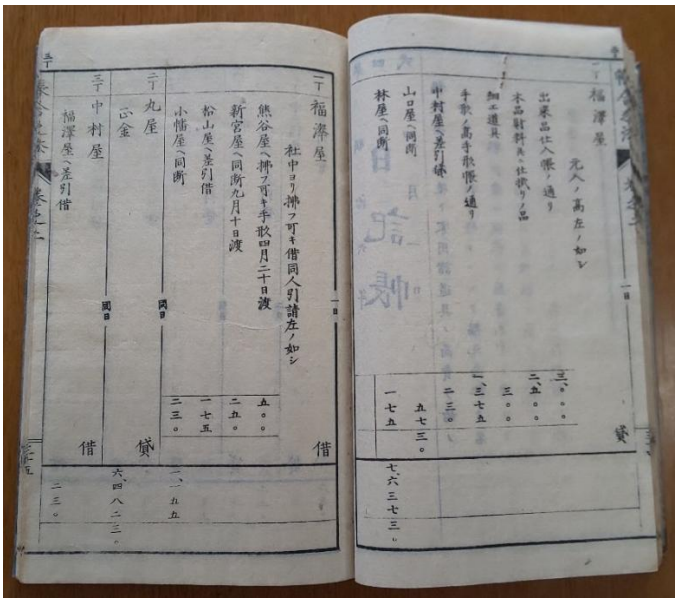
『帳合之法』は、福沢諭吉が日本で初めて西洋の簿記を翻訳し、紹介した本です。日本で長く使われていた「大福帳」に代わるものとして、明治6年6月に作られました。商売に役立てる実学の学問書となるよう、西洋式の金銭の授受取引や、会計の法を授けています。慶應義塾に学んだ初代校長の美澤先生や当時の先生方が、この本を使ってかつてのＹ校生に簿記の原型を教えていたのでしょうか。





本校にある**『帳合之法』**は「初編一」と「初編二」の二冊です。和綴じの本をめくると、大きく書かれた**『帳合之法』**の両脇に「福沢諭吉譚　慶應義塾出版局」とあり、その左右には「筆端能ク一世を経緯シ　努力以テ天下ヲ富実ス」と記されています。また上には天秤ばかり、下のほうにはそろばんが描かれています。このそろばん、みなさんが使っているものとはちょっと違っているところがあるのがわかりますか？どこが違うのかというと……。



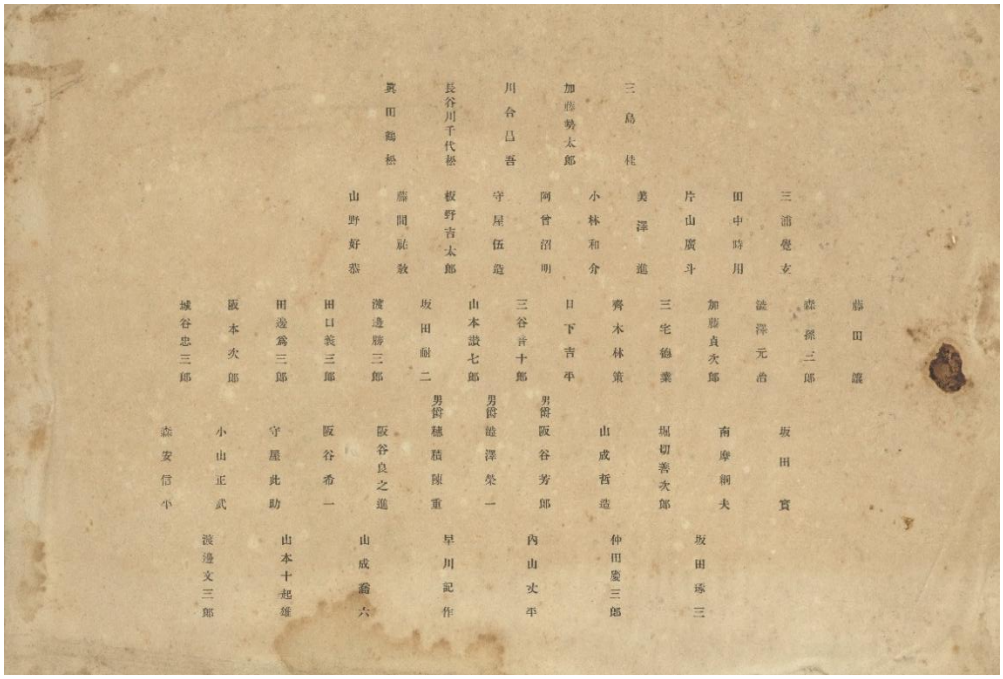


そろばんの下の珠が5段になっています。

Y校アーカイブ　vol. 3　「美澤先生と渋沢栄一」

前から二列目の真ん中に渋沢栄一、後ろから二列目の、右から四番目に立派なお髭を蓄えた初代校長の美澤進先生が写っています。
日比谷の成田写真館による写真ですが、いつ撮ったのか、何の集まりだったのかの記録がありません。
天井が高く、意匠を凝らしたモダンなしつらいのお部屋がどこなのかも残念ながらわかりません。





Y校アーカイブ　vol. 4　「開校参拾年記念メダル」

メダルラッシュに沸いたオリンピック、パラリンピックが終わりました。

今回は、Y校に保管されているメダルの中から「開校参拾年記念メダル」を紹介します。

直径約24㎜、十円玉くらいの大きさのメダルには、初代校長美澤進先生の胸像と「開校参拾年記念」の文字が彫られ、もう片面にはリボン？で囲まれた「Y」の文字と 「March 20th. 1911 横濱商業學校校友会」の刻印があります。

創立満 30 年記念祝賀会は 1912(明治 45)年 4 月 20 日に行われた と『Y校100年史』にありますが、メダルの刻印は「March 20. 1911」(明治 44 年 3 月 20 日)です。(Y校の設立は 1882(明治 15)年 3 月 20 日(『Y校100年史』より)です)

メダルが納められた桐の箱の蓋の裏に、「東京市麹町区飯田町四丁目十三番地 赤田末吉 製造」と製作者の情報がありました。







Y校アーカイブ　vol. 5　「Y校時報・横浜商専時報」

図書館で大切に保管されている資料の中に、昭和28年3月16日発行の古い新聞がありました。どこのかしらと見てみると、○○新聞とある場所に「Y校時報」とあります。かつてY校ではこんなに本格的な新聞を作っていたのかと驚きました。ジブリ映画「コクリコ坂から」に、横浜の丘の上に建つ高校の「新聞部」が出てきます。映画の設定は昭和38年ということですが、SNSの無かった時代のこと、このような本格的な新聞づくりをどこでも行っていたのでしょうか。

縮小してしまったので見づらいかもしれませんが、「本校就職率100％」という記事の中の先生のコメントに昭和を感じました。「月給はパチンコなどに使わないで、女は嫁入りの準備に、男は家庭を持つ準備に今から貯金すること。」今だと訴えられそうです。「バックル新しく登場」という記事もありました。「Y 字をバッジの形にし、黒字に左肩に誠、右下に YCUSS 金色で貫いてある」こんなバックル、今でも人気が出そうな気がします。

また、昭和3年にY校から新たに生まれた高等教育機関である「横浜商業専門学校(横浜市立大学の前身)」が作成した「横濱商専時報」も残されています。昭和16年7月9日に発行された新聞に掲載された横書きの広告には、右から書かれたものと左から書かれたものが混在していました。今も桜木町にある泉平の「いなりすし」や「第七有隣堂」の文字は右から左へと書かれていますが、真ん中の「古本高価買入　弘陽堂書店」は左から右へと書かれています。読んでいる方は混乱しなかったのでしょうか。ちなみに大手の新聞社は、戦後になってから左からの表記に統一したようです。

Y校時報

発行責任者　一瀬　武弘
横浜市立横浜高等学校
新聞クラブ
横浜市本宮町大神町
電話（9）九七三番

ノートブック特賣　二階
アルバム・サイン帖
有隣堂
祝御卒業　特製三五八・二六〇七番

新しき望み

式業卒生期六十六第

螢雪の功成りて
學窓を後に各自の道へ

注目さる新制初の五百余名

人生の覇旅の第一歩

理想實現の準備を怠るな

校長　杉田正人

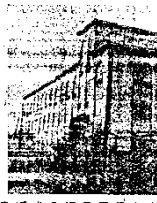


輝く出藍の譽れ

榮えある優等生二十三名

六級を吉田中学に移轉

28年度より實施と決る



六日制實施決定か

五日制支持が壓倒的

社會の期待に應えよ

卒業生に贈るの辞

横浜市長平沼亮三



平沼市長

誠

師の言葉

赤字五万余圓の

27年度決算金議終

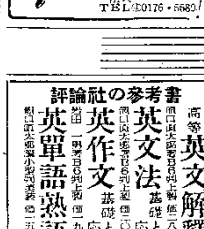
横濱ハット

春のネクタイ

弘明寺観音通り

祝御卒業
学帽・中折
各種子供帽子
横濱ハット
春のネクタイ
弘明寺観音通り

祝御卒業
優秀レコード
御用は
近藤樂器店



神奈川アーチェリー場
学生割引　¥60
横浜駅西口
神奈川体育館内
TEL(50176・5680)



祝御卒業
牛豚肉問屋
船舶諸官廳御用達
HAPPY MARUKO
金丸商店
横浜市中区初音町3丁目60　TEL.(3)4186

御進學　御就職　に
學帽及び
中折は
専門店　ハマヤ　へ
横浜銀信銀行
弘明寺支店並び

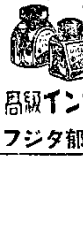
卒業アルバム製作
高倉寫眞工藝社



祝御卒業
Y校売店
校内
徒場
生室
その他
一式
文房具
飲食

皆様の為の……
皆様に依る
皆様の売店
御気軽に御来店の程

毎度有難う御座います
学用品と事務用品は……
日英米は特許！
ハロー
インキ
Y校正門前　フジタ都文堂



参考書
英文法　基礎と応用
英作文　基礎と応用
英文解釋　基礎と応用
英單語熟語
評論社

昭和十六年七月九日　横濱商業時報（水曜日）　第八ノ三號　（一）

横濱商業時報

事變四周年、前田校長訓話
戰爭と戰後經營の大事業
賞すべし國民の勇氣と決斷力

夏季鍛錬期來る！
眞摯敢闘炎熱も克服せん
報國團質的前進開始

炎天下四十粁踏破に
Y專健兒の意氣軒昂
第一回強歩大會擧行

傳統の強み遺憾なく發揮
堂々十一連覇樹立
市内四專門卓球リーグ戰

待望の連覇成る
市内四專門・三連リーグ

安富教授の後任に
生事渡邊教授來任

結核菌とツベルクリン反應
松岡校醫談

〝生徒協力會議〟
生活班の新しい試み

炎熱の錬成陸
銀錬部スケジュール決定

KYS大會に優勝
走巾跳・千五百に新記錄

古本高價買入
弘陽堂書店
イセザキ町四(3)1056

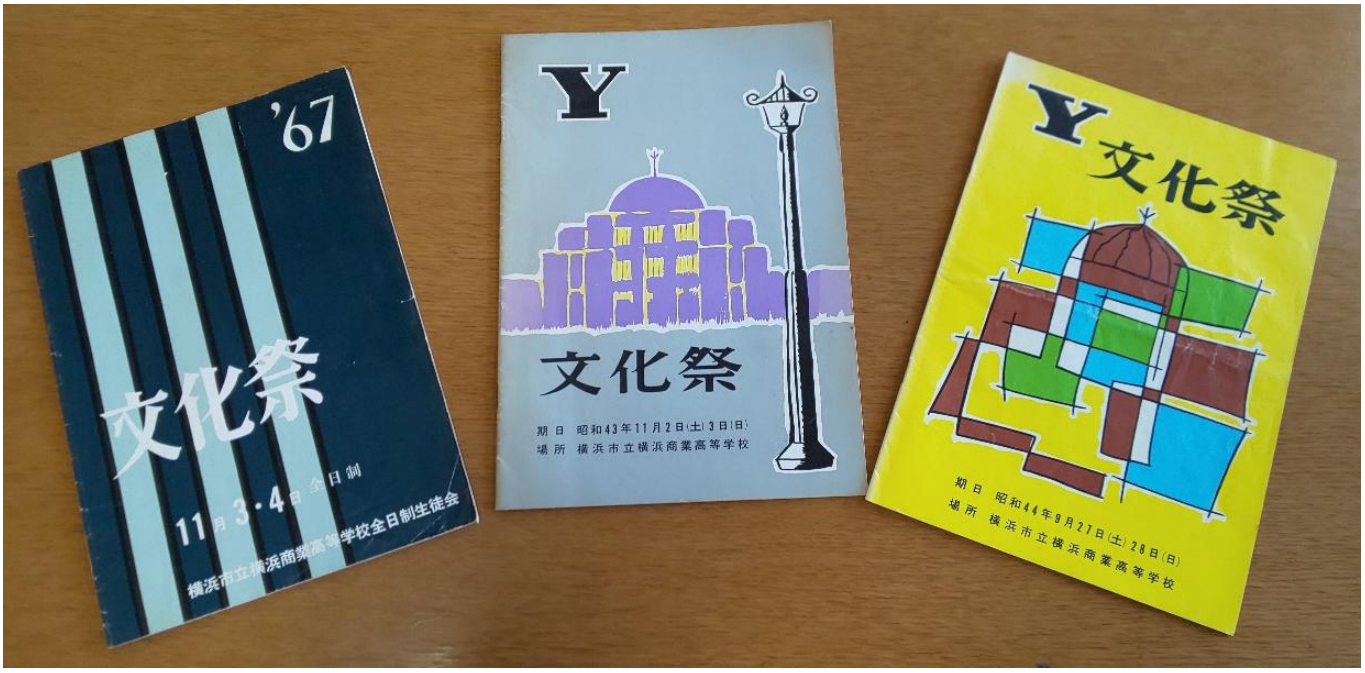
近代人の洋品
吉田橋
トクナガ

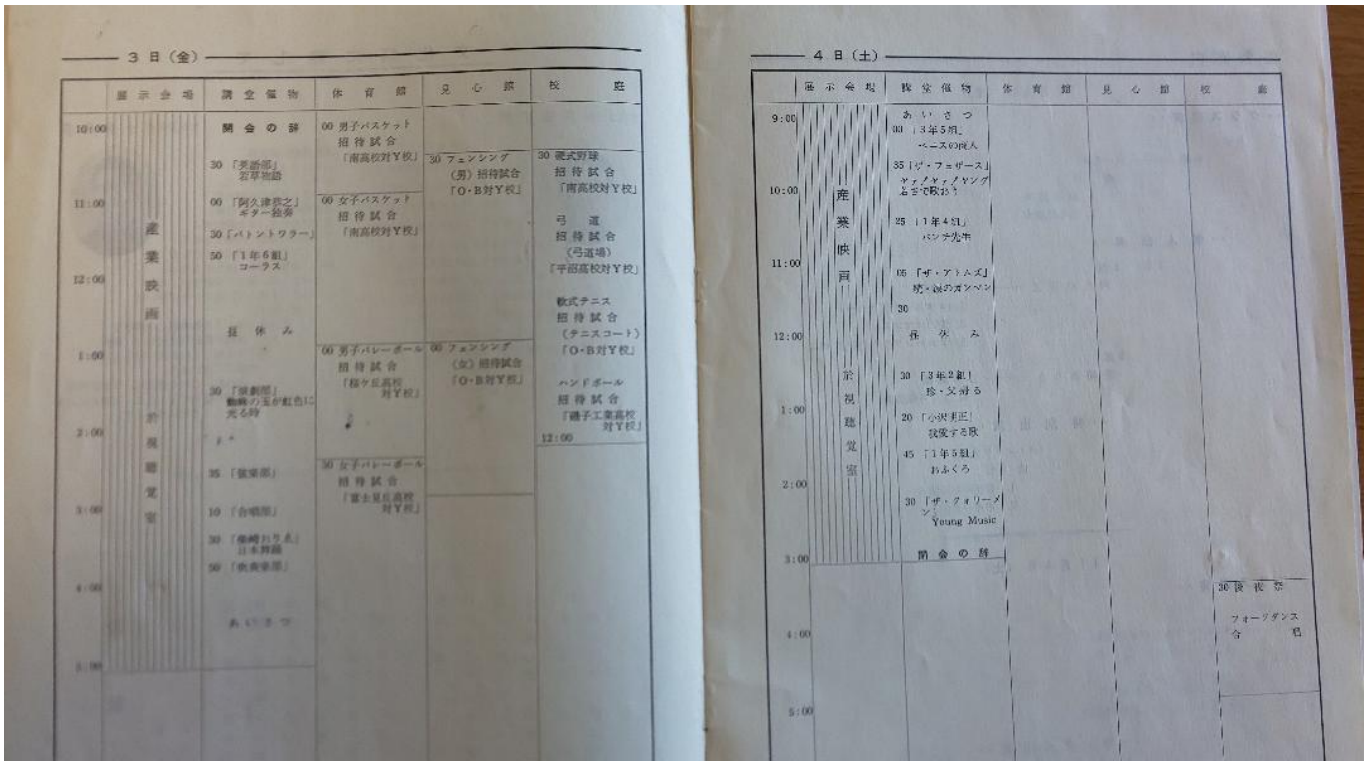
サキの名物
吉兆
笑

一生涯の
金正堂眼鏡店

Y校アーカイブ　vol. 6　「昭和のY校祭」

楽しかったY校祭の余韻がまだ少し残っています。いつも以上に生き生きとしたY校生の姿がとても印象的でした。 図書館にある、50年以上前の文化祭のパンフレットを見てみると、産業映画の上映を行っていたり、いくつもの部活が招待試合を行っていたり、個人で日本舞踊を披露していたり。 かつてのY校生が文化祭に向けていた情熱が、少し色あせた紙面から伝わってきます。 今はない部活動の名前もたくさん見られます。ハンドボール部、フェンシング部、速記部、弦楽部……。 産業調査部やエスペラント部、JRCはどんな活動をしていたのでしょう。高校なのにビールの広告がたくさんあるところにも、時代を感じました。 1969年に開催されたY校祭のキャッチフレーズは「若さと伝統」。 50年以上前から、すでに「伝統」を背負っていたことに、歴史の重みを感じます。

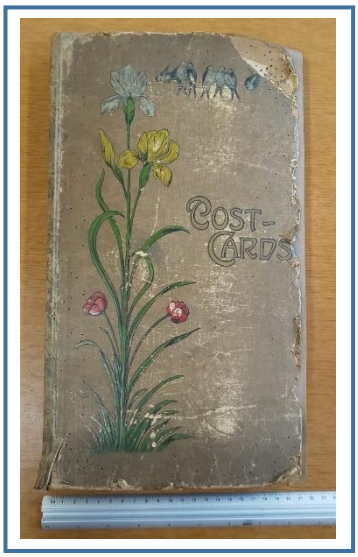




Y校アーカイブ　vol. 7　「年賀状」

明治の終わりころから大正時代にかけて、初代校長の美澤進先生やご家族に届いたポストカードが保管されています。縦 38 cm、横 21 cm、厚みが 3 cmほどの**「ポストカードホルダー」**は、長い年月を経て、虫食いやほころびなど劣化が見られますが、表紙に描かれた五線譜のような電線に乗った7羽のツバメたちや、今も色鮮やかな水仙とポピー、そして「POST-CARDS」の洒落た字体に、センスの良さを感じます。この中におさめられた美しい140枚のポストカードの中から、今回は、10枚の**「年賀状」**を紹介します。

ポストカードホルダーの表紙





中には1ページに、縦なら2枚、横なら3枚、見開きで最大6枚のポストカードがおさめられるよう、切り込みが入っています。

右上のニューヨークのグラント墓地の絵葉書にはラメの加工が施されています。

百年以上前の年賀状の一部です。→

シアトルから届いた、1906の数字の○の中には、当時のロシアの皇帝ニコライニ世と、アメリカのルーズベルト大統領、日本の明治天皇の写真が Peace on Earth, Good Will to Men の文字とともにデザインされています。

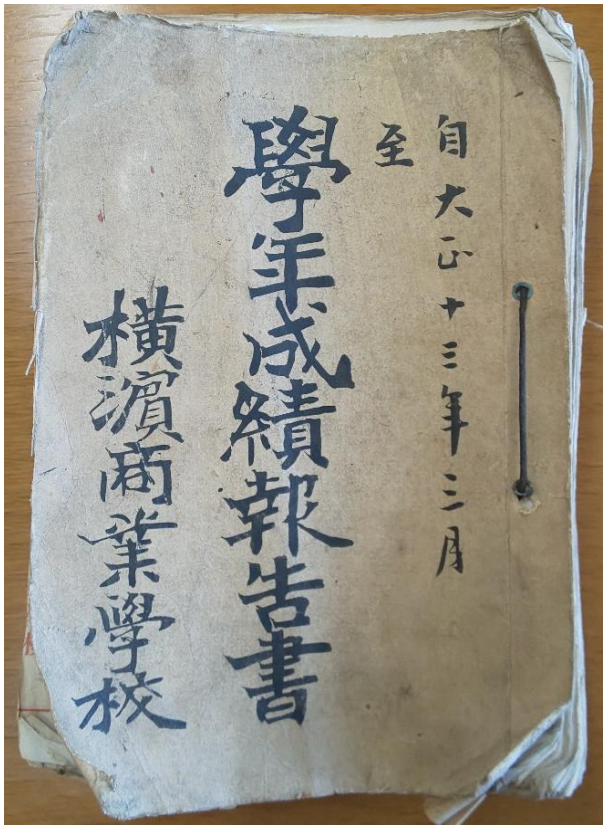
馬や薔薇のイラストにはエンボス加工が施されていて立体感があります。



世界中から美澤先生に宛てて出された年賀状は、インドからでもサンフランシスコからでも、もちろん国内からでも、番地なしで届いていることに驚きます。



Y校アーカイブ　vol. 8　「學年成績報告書」



大正13年から昭和15年までの生徒の「學年成績報告書」です。 といっても、一人ひとりの詳細な成績が記載されているわけではなく、学年ごとに、及第者、落第者などの人数や氏名、成績優秀者や皆勤賞などの受賞者、そして卒業生の氏名が丁寧に手書きで記されています。

表紙と裏表紙には鳩目が打たれた少し厚めの紙が使われており、中の紙は縦に罫線が引かれた薄い原稿用紙で、黒の綴り紐を使って綴られています。新しいものは裏から足しています。17年間分で約6センチの厚みがあります。

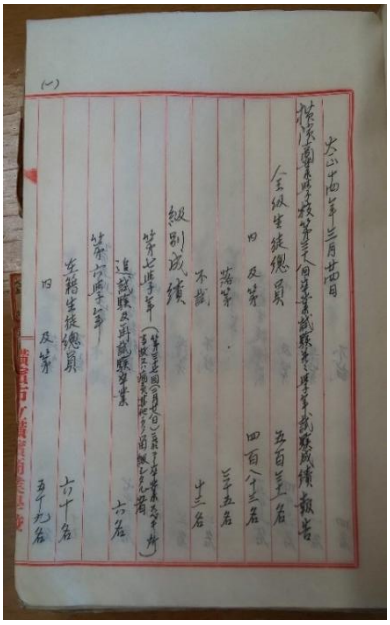


赤い罫線が引かれた大正13年の原稿用紙の中央下部分にある学校名は「横濱商業學校」、大正14年からは「横濱市立横浜商業學校」となっており、毎年新しい原稿用紙を作成していたことがうかがえます。大正14年までは7学年分の生徒の記載があり、大正15年になると本科が5学年まで、専修科が2学年となっています。昭和5年には、現在の横浜市立大学の前身である「横濱市立横濱商業専門學校（呼称：Y専）」の学年成績報告が青い原稿用紙で現れます。下の写真の右側にあるのは、その横濱商業専門學校第一期生の卒業生が記されているものです。

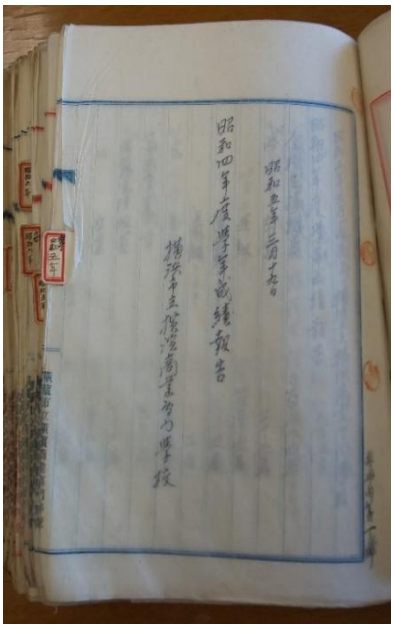
Y校の卒業生はいろは順に並んでいますが、Y専では昭和7年の卒業生からABC順となっています。

お休みをせず頑張った「一学年間欠席遅刻早退欠課なくして皆勤成績佳良に付第〇回美澤皆勤賞を得る者」だけでなく、「級長の職務良好にして賞せらるるもの」という賞もありました。

日露戦争で戦死を遂げたY校出身者十二名は、桜木町にある伊勢山皇大神宮に乃木希典将軍の揮毫による表忠碑が建立され祀られていますが、そのうちの三名（一時期四名）による「在学間成績優秀につき故北村、人見、石川　三歩兵中尉（田辺歩兵伍長）の奨学賞を受くる者」という奨学金もあったことが記されていました。



Y校



Y専

Y校アーカイブ　vol. 9　「教科書」

昭和4年の卒業生から寄贈された教科書です。

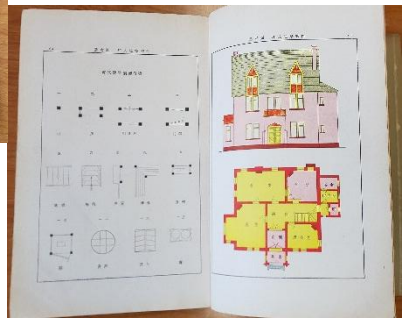
「中等教育算術教科書」「中等立體幾何學教科書」「最新圖法教本」「最新外國貿易實践」「改訂最新銀行簿記」「改訂最新銀行簿記」「新式珠算 神尾式獨算ノート 附 新式乘除算法」「新制 漢文讀本」「新制實業修身教本」「中學 國文教科書」「實業教育輓近理科教科書 博物編」「新訂 中學日本歷史」「商業作文綱要」「實業新作文」「商業英語十二講」「EASY ENGLISH COURSE」「NEW INTRODUCTION TO THE ART OF ENGLISH COMPOSITION」「NANNICHI'S PRACTICAL ENGLISH GRAMMAR FOR INTERMEDIATE SCHOOLS」など、30冊に及ぶさまざまな科目のものがありますが、商業関係のものが少ないのは仕事上の実践で活用していたからでしょうか。英語の教科書はとても充実しています。

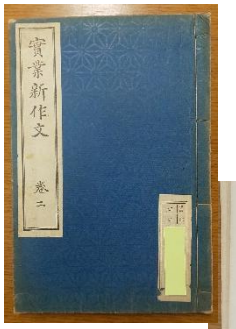


カラーのイラストが美しい製図の教科書「最新圖法教本　第一·二巻」や、手紙の書き方など実際に日々役に立ちそうな「實業新作文」は例文も面白く、当時の授業中にも笑いがあふれていたのではないでしょうか。

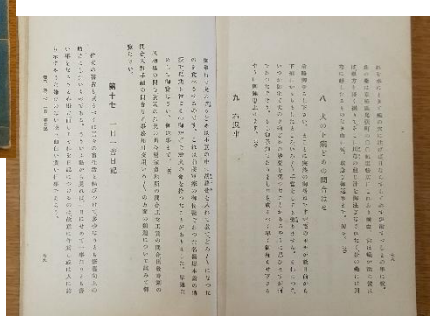


表紙の図柄も美しい、
教科書らしからぬ本です





糸で閉じられた和綴じの製本です
例文タイトルは、まさかの
「犬の下痢どめの問合はせ」
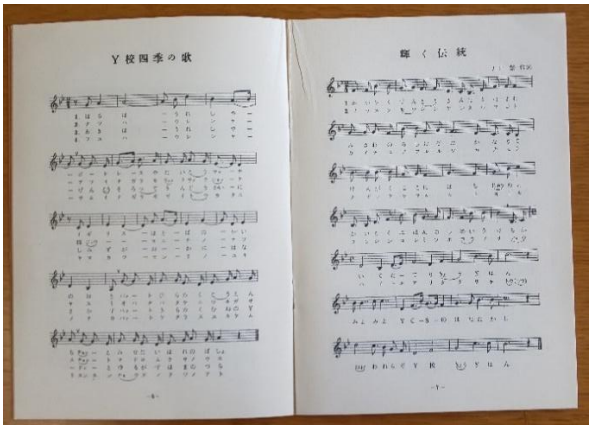


Y校アーカイブ　vol. １０　「応援歌」

部活動にいそしむY校生の姿に、いつも元気をもらっています。横浜スタジアムでの硬式野球部の試合を観戦し、吹奏楽部やバトン部の熱の入った応援にも心が打たれました。軟式野球部や他の部活動の活躍も楽しみです。コロナ禍で声を出しての応援がままならないのですが、これから少しずつ緩和されて、応援歌を歌える機会がたくさんあることを期待しています。今回は、そんな応援歌集を特集します。

三種類の応援歌集が、図書館に保管されています。





手のひらサイズの小さな歌詞集「Y校の歌」は、昭和4年に発行されたものの復刻版で、28曲の応援歌の歌詞と、替え歌として応援歌に使用している「佐渡おけさ」の元歌の歌詞が掲載されています。

表紙に「校歌・應援歌」とある21㎝×15cmの冊子には、校歌と、今でも歌われる「Y校の意気」「輝く伝統」「Y校健児の歌」など21曲の応援歌が楽譜とともに載っています。発行年などの記載がなく、いつ頃に出されたものかは不明ですが、「輝く伝統」の歌詞に「けんがくここにはちじゅうねん（建学ここに八十年）」とあるので、1965年（昭和40年）頃に発行されたものと思われます（右上の写真参照）。

一番新しい水色の冊子には21曲の応援歌が楽譜付きで収められています。こちらの「輝く伝統」の歌詞は「けんがくここにいっぴゃくねん（建学ここに一百年）」なので、40年ほど前のものでしょうか。ちなみに現在は、野球部応援団長に確認したところ、「建学ここに百四十」と歌っているそうです。

1964年にはレコードも作られています。校歌のほか 12 曲の応援歌が収められているLPレコードです。野球部の顧問の先生とこのレコードを聞いたとき、「輝く伝統」にY校短艇部歌とあるのを見て「野球部の歌ではなかったのか！」と驚かれていましたが、水色の冊子に（各部適用）とあったので、安心してどの部活動でも歌ってください。ボート部（端艇部）の記載が短艇部となっていますが、日本国語大辞典によるとどちらも同義のようです。





「Y校の意気」を口語訳したものが、Y校と横浜市大の卒業生の同窓会である「進交会」のホームページ内の「Y校会だより」15号 に掲載されています。 卒業生のY校愛を感じます。ぜひご覧ください。

進交会